

「平城京のなっぴい」

奈良市消防局総務課
総務グループ 主査 南 尊文

1 はじめに

奈良が歴史の舞台に登場するのは、元明天皇が和銅3年（西暦710年）に飛鳥の藤原京から、この地に都を遷したことに始まります。

以来7代70余年の間、首都として栄え、天平文化の華を咲かせました。来年の2010（平成22）年は、首都「平城京」が誕生してから1300年にあたります。これを記念し、平城京誕生の地で「平城遷都1300年祭」が開催されます。

奈良市が参画する一事業として、「第6回全国消防音楽隊フェスティバル」が平成22年10月10日（日）コンサート&パレード、11日（祝）マーチングフェスティバルを計画しています。日本の心のふるさと、平城京の芸術が連綿と続いたことを祝い感謝するため、音楽という世界共通語を通じて自主防災の輪が奈良から広く国の内外に発信し、安全安心のまちづくりの実現を目指します。

2 マスコットキャラクター『なっぴい』の誕生

奈良の鹿は昭和32年に天然記念物に指定され、現在1,100余頭が生息し、奈良公園のシンボルとしても広く内外に知られています。

市政100周年にあたる平成10年に、「古都奈良の文化財」として、東大寺などの8資産群がユネスコの世界遺産に登録され、県都として、また世界に誇る国際文化観光都市のマスコットとして多くの観光客を、迎えてくれます。

このマスコットを消防行政と結びつけようと、平成10年に職員アイデアとデザインによって雄

鹿『なっぴい』君が誕生しました。

愛称は市民からの公募で、当時小学1年生の児童が応募した「奈良の火事の火をぜんぶなくしてね」との願いを込めて、奈（な）火（ひ）から『なっぴい』と決定されました。デビューは平成10年秋季火災予防運動の防火パレードでの着ぐるみで初お披露目後、消防局が実施するイベントや消防音楽隊の行事などで消防行政のPR活動など幅広い活動をこなしています。また、イメージキャラクターとして消防音楽隊のバーナムや楽器搬送車、緊急消防援助隊に出動する支援車などにも表示し、



消防音楽隊バーナムと楽器搬送車



八島治氏（制作者）と「なっぴい」



「なっぴい」と園児たち

奈良の火事が全部なくなるようにと願って活躍しています。

3 一刀彫奈良人形『なっぴい』

奈良の一刀彫の工芸品は奈良人形とも言われています。桜、桂、楠などを素材として、ノミで豪快に彫り上げた上に、金箔や岩絵具などで極彩色を施しているのが特徴です。

一刀彫奈良人形『なっぴい』の制作者は、奈良市消防局OBの八島 治氏（65歳）で、交替勤務の

傍ら25歳から、飛騨高山の彫刻師 故 平塚 一峯 氏に師事し、奈良人形といわれる色彩を施した技法を奈良の彫刻師 故 太田 照玄 氏に師事し、能楽、舞楽、鹿、十二支、ひな人形などを題材とした魅力ある作品を制作されています。

奈良市消防局では、八島氏作の一刀彫奈良人形『なっぴい』をこのたび消防基金に寄贈いたしました。

これからもイメージキャラクターである『なっぴい』をいろいろな形で多くの場に登場させ、奈良市の消防を広くPRして行きます。



奈良市ファミリー救急展にて
（黒消防団長…左）
（猪岡消防局長…右）



「なっぴい」を贈る奈良市消防局職員と
内貴常務理事（消防基金）